

病害虫発生注意報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

斑点米カメムシ類の多発に注意 !!

斑点米カメムシ類の生息数が水田内および畦畔において多く、斑点米被害の増加が懸念される。適切な畦畔雑草の管理、出穂後の本田防除の徹底が必要である。

◎病害虫名 斑点米カメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメ等)

1 発生地域: 県下全域

2 発生程度: 多い

3 注意報発令の根拠

(1) 6月中旬(6月16~17日)の水稲病害虫定点調査の結果、畦畔・雑草地での斑点米カメムシ類の確認地点率は80.0%で平年(58.5%)より高く、平均虫数は7.7頭で平年(3.8頭)より多い(表1)。

また、水田内の斑点米カメムシ類の平均頭数は1.5頭で平年(0.4頭)より多い(表2)。

(2) 中でもアカヒゲホソミドリカスミカメは、確認地点率が高く、捕獲頭数も多い(図1、2)。

(3) 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、斑点米カメムシ類の活動が活発になると推測される。

4 防除対策

<雑草対策>

(1) 斑点米カメムシ類の繁殖を抑えるため、7月上旬の畦畔および雑草地の草刈りを徹底する。

(2) イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。

(3) 斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。

<防除>

(1) てんたかく等の早生品種は、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を確実に実施する。また、コシヒカリおよび晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。

(2) 防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。

(3) 近隣に雑草地や麦あと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなる場合があるので防除を徹底する。

(4) 割籾の発生が多いと予想される場合や散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。

※農薬散布にあたっては、事前に周辺住民等に対して、十分な周知に努め、周辺作物や住宅地等への飛散防止に努めるとともに、農薬の使用回数、使用時期等の基準を遵守する。

※養蜂が行われている地域では農薬散布前に養蜂業者へ連絡するなど、ミツバチの危害防止対策に努めること。

【参考資料】

◎ 斑点米カメムシ類生息密度調査結果

表1 水稲病害虫定点調査【畦畔・雑草地】
(6月16～17日、すくい取り20回虫数)

	アカヒゲホソミドリ カスミカメ		アカスジカスミカメ		トゲシラホシ カメムシ		合 計 (その他斑点米カメムシ類を含む)	
	確認	頭数	確認	頭数	確認	頭数	確認	頭数
	地点率(%)		地点率(%)		地点率(%)		地点率(%)	
本年	64.4	5.93	22.2	1.33	11.1	0.11	80.0	7.73
前年	57.8	4.93	46.7	1.24	11.1	0.22	68.9	6.42
平年	36.8	2.25	25.1	1.26	10.7	0.16	58.5	3.80

※調査地点数45、平年値は過去10年間の平均

※その他の斑点米カメムシ類はブチヒゲカメムシ、アカヒメヘリカメムシが主体

表2 水稲病害虫定点調査【水田内】
(6月16～17日、すくい取り20回虫数)

	アカヒゲホソミドリ カスミカメ		アカスジカスミカメ		トゲシラホシ カメムシ		合 計 (その他斑点米カメムシ類を含む)	
	確認	頭数	確認	頭数	確認	頭数	確認	頭数
	地点率(%)		地点率(%)		地点率(%)		地点率(%)	
本年	48.9	1.36	4.4	0.18	0	0	48.9	1.54
前年	44.4	0.76	0	0	0	0	44.4	0.76
平年	18.6	0.41	1.9	0.03	0	0	19.8	0.44

※調査地点数45、平年値は過去10年間の平均

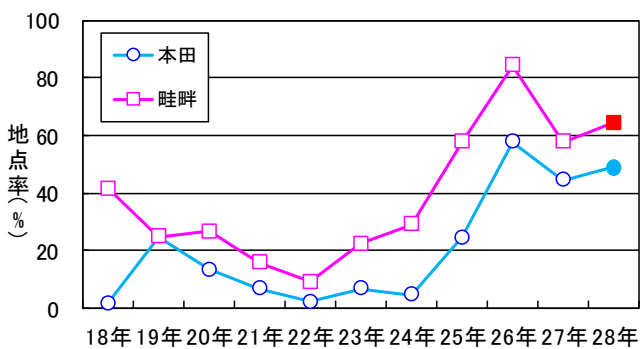


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメ確認地点率の年次推移
(調査時期:6月20日)

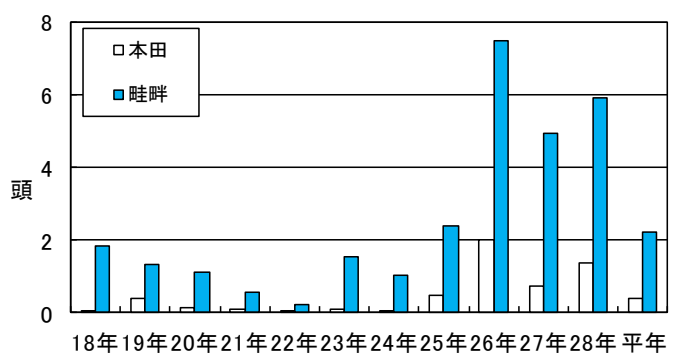


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメすくい取り虫数の年次推移
(調査時期:6月20日)

問合せ先 農業研究所 病理昆虫課
TEL076-429-5249 FAX076-429-2701